

市民ダンサー100人が山形を明るく、元気にするダンスを披露 文翔館がピンク色に染まる「市民による変動計画」を25日に開催

東北芸術工科大学（山形市上桜田／学長：中山ダイスケ）が主催する「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2022」では、最終日となる9月25日（日）、山形県郷土館「文翔館」を会場に、**アートプロジェクト「PINK PUBLIC PROJECT」を開催**します。プロのダンサーから小学生まで、幅広い世代の総勢100名のダンサーがダンスを披露します。



写真（右）：9月18日に行った合同練習の様子

山形の街と未来を元気に前向きに変えていこうという祈りを込めた本プロジェクトをぜひご取材賜りますようお願いいたします。

◎アートプロジェクト PINK PUBLIC PROJECT「うごく、かわる、変動計画」

開催日時：2022年9月25日（日）14時00分～16時00分

会場：山形県郷土館「文翔館」前庭

※参加費無料、事前申し込み不要

※雨天時は本学体育館にて実施（プレスのみ公開）

リハーサルの様子もプレス向けに公開いたしますので、併せてご取材いただければ幸いです。

9月23日（金・祝）12:00～17:00 東北芸術工科大学・体育館にて

9月25日（日）11:00～ 文翔館にて

◎出演・アーティスト

キュレーター：原 高史（はら・たかふみ／本学グラフィックデザイン学科教授）

衣装：飛田正浩（とびた・まさひろ／本学美術科・テキスタイルコース教授）

撮影：望月 孝（もちづき・たかし／本学グラフィックデザイン学科教授）

ダンサー：SEI・MOGA・福助・Himawari・ちゃんなつ・TARO・Mayu・Yukke・FRIDAY・K@TTSU

山形県の小中高生、大学生

ダンス総合統括：SEI 振付・演出：MOGA MC：エース

◎ダンスについて

新型コロナや自然災害などで先行き不透明な状況の今、私たちの多くが未来に不安を抱えているはずです。ダンサーたちはこれらの抱えているものを払拭するという意味を込めて、箒やデッキブラシなどの掃除用具を持って表現します。

山形を拠点に第一線で活躍する「SEI」、「MOGA」ら 10 名のダンサーが振付を担当し、当日も他の市民と共にパフォーマンスを披露します。



〈ダンスコンセプト〉

コロナ禍で感じた不安や、会いたいのに会えない切なさ。触れたいのに触れられない怒りを抱え、フラストレーションが溜まる。そこへ現れる掃除の妖精が、私たちの心も身体も綺麗に磨きあげていく。今までのネガティブな壁を壊し、ポジティブな世界へ向かう力を得て、HAPPYで元気な世界、希望のある未来へと進んでいく。

*ストーリー仕立ての演出にもぜひご注目ください。

◎衣装について

プロダンサー10名の衣装はオートクチュール。それぞれの普段のステージ衣装にフィーチャーした専用衣装です。市民100人が着る衣装は「変動する山」をモチーフに手刷りしたものです。ファッションデザイナーで、本学美術科工芸コース教授の飛田正浩（とびた・まさひろ）が各デザインを担当。参加者全員がピンクの衣装をまとい、文翔館をピンク色に染めます。

お問い合わせ：東北芸術工科大学 山形ビエンナーレ事務局

TEL: 023-627-2091